

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1.理念と共有		「ふれあい、共に支えあい 笑いの輪を広げ歩いていく」	
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念「人権の尊重」利用者一人一人のニーズと意思を尊重し出来る限りの生活の質の向上を図るを念頭に於いてグループホームの「ゆっくり 楽しく一緒に」をモットーとしている。一月の運営推進会議で理念について取り上げ、地域密着型サービスとして独自の理念を再検討し次回にまとめる。	地域密着型サービスとして、独自の明確な理念を3月には掲げて、より一層の質の確保に努めたいと思っている。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議、毎日のミーティング等機会あるごとに理念の意味を説明し、2ヶ月に1回新たな目標を立て、実践を日常的に共有する機会を持っている。	実践が理念に基づいたものとなるよう、常に職員が意識して話し合うように、取り組んでいきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	毎月1回、ホーム便りを郵送したり年2回の家族会、行事等を通じて家族や地域の方々に、理念を理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議、家族会や行事時等に分かりやすく理念を説明し理解して頂くよう、今後も継続して努力していく。3月に家族会を予定している。
2.地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近くの商店に買い物に行ったり保育園児の登園時に合わせ挨拶運動を行ったり、神社の清掃や散歩に行き地元の人とのコミュニケーションを図っている。	運営推進会議の充実を図り、地域の方に気軽に訪問して頂き、又、突然起こり得る災害に協力を得る為に、更に馴染みの関係を一步一步、築いていきたいと思っている。
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会、老人会に依頼しグランドゴルフの指導を受けたり、自治会主催のとんどに参加したり納涼大会、クリスマス会に地域の方にも参加して頂く他、月2回地域の神社の清掃をしたり、散歩の途中に地元の人々と交流することに努めている	納涼大会はパンフレットを配布して多数の参加を募っている。地元中学生によるトライやるウィークでは毎年何名かを受け入れ活動を通じて交流を深めている。又、中学生による箏曲や高校生のブラスバンド演奏も受け入れ交流を図っている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる</p>		<p>運営推進会議で自治会長、民生委員の出席を得て いるので現在の事業所の機能や内容を理解して頂 き在宅で認知症の方や独居で人との交流が少ない 方等に事業所が積み上げてきた知識や実践経験を 活かす方法がないか話し合っている。</p> <p>自治会長、民生委員を通して気軽に足を運んで頂 くようこまめに連絡等を心がける。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>		<p>評価の一連の過程を通じて、職員が評価を前向き に捉えるように、ミーティング、職員会議、運営 推進会議で具体的に話し理解を深めている。今後 共質の確保、向上につなげていきたい。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこの意見をサー ビス向上に活かしている</p>		<p>2ヶ月に1回設け利用者、利用者家族、地域の代 表の方々に行事等や利用者の状況を報告し意見交 換を行いサービス向上を図っている。</p> <p>平成21年3月9日に第6回、運営推進会議を開 催する。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町と ともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>		<p>地域包括支援センターとは常に行き来して現場の 実情等伝える機会を設けている。必要に応じて対 応する体制を整えている。</p> <p>地域包括支援センターとは顔の見える状態にある ので、相談しやすい体制にある。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要 人にはそれらを活用できるよう支援して いる</p>		<p>職員は福祉サービス利用援助事業や成年後見制度 について学ぶ機会を設けている。現在、特に活用 等には至っていない。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている</p>		<p>虐待防止マニュアルを作成し職員は高齢者虐待防 止関連法について、朝礼や専門性分野の地域包括 支援センターの職員より学ぶ機会を設け、職員に よる虐待防止を図っている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約、解約等は利用者や家族に分かりやすく不安や疑問が生じないよう説明を行い、納得の上で手続きを進めている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情相談窓口を記している。利用者には不満、苦情を月1回全体に聞く機会を設けたり、日々気軽に相談等出来る関係を築くよう図っている。</p>	<p>一人ひとり担当制をとっているため、身近な相談、心配事や日々の状態の変化を早くキャッチ出来てきている。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>ホーム便りに暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等、定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>利用者や家族の状況に合わせ、家族が知りたい点を考慮し積極的に報告を徹底していきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に苦情相談窓口を明記している。運営推進会議や家族会等で意見、希望を聞き運営に反映している。</p>	<p>家族等が安心して意見、苦情、不満を率直に言えるような場を今後も模索していく。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員会議やミーティングで職員の意見や提案を適時聞く機会を設け反映させている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>変化する利用者や個別の要望にそって人員調整し、状況により他部署からの応援を求め柔軟に対応している。休日希望も出来る限り調整し私生活の充実も図っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	止むを得ない離職に対しては利用者に説明し速やかに交代職員を配置しケアの継続に配慮している。		
5.人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時のオリエンテーション、外部の研修にも積極的に参加し復命書を回覧し、又施設内研修を月1回、法人内で設けて働きながら技術や知識を身につけるよう工夫している。		事業所内外の研修を、各々の研修や習熟度の段階に応じて計画的に進め、技術や知識を身につけるように取り組む。
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路介護サービス第三者評価機構主催の研修会で同業者との交流や勉強会に参加したり、訪問の機会を設け日頃の仕事の悩みの解消やサービス向上の水準につなげている。		今迄以上に同業者との交流や連携を深め勉強会や事業所の質の向上を図る。
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休日希望日も調整し私生活も充実できるよう勤務体制をとっている。年2回は親睦会を設け食事、カラオケ、ゲーム等を行い職員のストレスを軽減している。又、衛生管理士を配置し相談体制整備を行っている。		
22 向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	資格取得アドバイス、情報提供を図ったり職員個々の努力や実績、勤務状況を常に把握し施設内研修はもとより外部研修にも参加を促し、各自が向上心を持って働ける様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前に事前面接を行い現在の状況、不安な事等の思いを受け止めゆったりと時間をかけ聞く機会を設け、感情表現が出来る様配慮している。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>相談時より困っていること、不安なこと、求めていること等聞く機会を設け電話にても聞く配慮をしている。ホーム訪問の機会が増す雰囲気作りや、月1回のホーム便りや個人情報を提供している。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>実践はしていないが優先順位を見極め「その時」必要なデイサービスやショートステイの利用が出来る様支援する。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用するまでに家族と利用者でホームを見学して頂き、職員や利用者との環境に徐々に馴染める様、段階を踏んでいる。又本人が安心して納得しながらサービスを受け又、本人のペースで生活に溶け込める様、家族の協力を得ながら進めている。</p>	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>戦後の様子や昔ながらの風習、手芸、漢字の読み取り等日常的に教わっている。得意な分野(手芸、包丁研ぎ、詩吟等)を有する力を引き出しながら利用者より学び支えあう関係を築いている。</p>	<p>得意な分野を充分発揮してもらっている。(手芸、習字、詩吟、園芸、包丁研ぎ等)</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28 利用者と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	毎月ホーム便りにて日常生活の様子、行事案内、行事報告、誕生会案内を行いバス旅行、誕生会、納涼大会、クリスマス会等一緒に参加していただき、共に利用者を支えていく対等な関係を築いている。		利用者は家族に遠慮がある。その反面日々生活を共にしている職員は利用者が何を求めているか把握出来るので、常に代弁者となり共に利用者を支えていく関係が築ける様支援していきたい。
29 利用者との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	訪問が遠のいている家族には必要時に本人の思いや気持ちを伝える代弁者となり面会が出来にくい場合は電話、FAXを活用しより良い関係が築ける様支援している。		介護計画では充分説明し要望等聞き納得して頂き署名、捺印して頂いている。
30 利用者にとって大切な馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	宗教の信者とし年1回行われる文化祭や総会を家族の支援を受け参加している。保育園に長年貢献した利用者に対しては運動会、音楽会等に参加して頂きこれまで培ってきた社会との関係を断ち切らない様支援している。		家族にも理解、協力を求めながら今後も継続して支援していく。
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	クラブの参加やレクリエーション参加等は利用者同士の関係を理解、把握し一人一人が孤立することなく共に支え合えるように努めている。		利用者の得意とすることで役割を持ち、利用者同士声掛けしながら助け合って過ごしている。
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居者が併設事業所に入居しているため居室を訪問したり行事時や廊下で家族や本人に会った時はさりげなく様子を聞き支援している。		今後共に面会の機会を持ち、家族とも交流を継続していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人一人の思いや希望を全体会や、又、日常生活時にさりげなく聞いたり、把握するように努めている。把握が困難な場合は家族の訪問時やケアプラン説明時に聞くようにしている。</p>	<p>遠慮をしたり思いを表出するのが困難な利用者に対し、職員一人一人が表情や言動で思いや希望が伝わってくるので、関心を払い把握しようと努めている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>これまでの生活歴や生活環境又、これまでのサービス利用に至った経緯等を、本人や家族から把握しつつ、なおかつプライバシーに配慮しながら個別に対応している。</p>	<p>職員が本人や家族等と馴染みの関係や、更に信頼関係を築きながら日々の中で、これまでの暮らしぶりを捉えていくよう努めていく。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>一人ひとりの一日の暮らし方や流れを職員はミーティングやカンファレンスで把握し統一している。</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアマネージャーを中心に本人や家族との情報を密にして意見や気付き、アイデアを出し合ったり話し合ったりしながら介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画はほぼ3～4ヶ月に一回見直しを行っている。状況に変化が生じた場合は随時カンファレンスを開催し見直しを行っている。</p>	<p>包括自立支援中心のケアプランからセンター方式のケアプランに徐々に移行し、より一層利用者を中心とした介護計画を作成する。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの実践、気づきをパソコンに具体的に記載している。食事計画の見直しや活用に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	日常生活をグループホーム内に留めず、法人の散策公園での昼食会や、指導者を招いての特養合同の習字や、花の会の参加又、ホームでの入浴が困難な利用者には特養での機械浴を依頼し、安楽な方法等で柔軟な対応で支援している。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会、老人会、民生委員、地域包括支援センター消防訓練、ボランティア、トライやるウィーク、小中高等学校と協力連携し支援している。		
41	他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	姫路市介護サービス第三者評価機構主催の研修会に参加したり、地域包括支援センターのケアマネジャーと常に意見交換を図ったり、同業者を訪問し日頃の仕事の悩みや、質の向上の為の気づきを図っている。		
42	地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に行き来し、日常生活に役立つアドバイス等を受けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	嘱託医と利用者のかかりつけ医は連携しており、通院可能な状態はかかりつけ医を受診し、状態が悪化した場合はかかりつけ医と嘱託医が連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科クリニックの往診を受けており、家族や職員が気軽に相談したり治療を受けられるよう支援している。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設特養の看護師に利用者の個別の状況を理解、把握してもらっており、日常的に気軽に相談しながら健康管理や医療的な支援を受けている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	家族と相談しながら本人に関する情報の提供やケアについて話し合っている。入院した時点より利用者と職員が毎日面会に行き入院によるダメージの軽減に努め早期の退院につなげる様支援している。平成19年12月より入院なし。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	折に触れ重度化した場合の説明はしている。全介助の介護が必要となった場合は特養入居をと説明している。出来るだけ早期から家族、かかりつけ医、ケア関係者と話し合いを繰り返し、その時々家族の意向を確認しながら対応方針を図っている。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	平成20年3月迄在住の利用者が、特養に移籍した経緯がある。事業所で「対応が可能な事・困難なこと・不安な事・出来る事・できない事」を職員が卒直に話し合い、家族や看護師、かかりつけ医、や医療機関と充分連携体制を図り取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	別の居所へ移り住む際、関係者に対して本人の状況、好み、ケアの工夫等情報を関係者や家族に詳しく伝え、継続してケアしてもらえる様働きかけている。	
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	朝礼やミーティング等で常に利用者の誇りを尊重し言葉かけや対応に配慮する様具体的な話がなされている。希望により居室に鍵をかけることも出来る。入浴、排泄、介助は特に羞恥心に配慮している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	日常生活（散歩、食事、入浴、排泄介助時テレビ鑑賞、クラブ、レクリエーション、家事）等で利用者の意見を聞いている。特に食事は個人の意見を尊重し好き嫌いな物に配慮したり食事時間も本人に合わせている。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	生活リズムや行動を把握し一人ひとりのペースを大切にしている。その日の過ごし方に職員数が必要な場合はその時間に合わせ勤務体制をとっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	一部の利用者を除き殆ど訪問理容を利用している。その中で本人が好みを伝え納得した髪形をしている。TPOに合わせた服装、アクセサリーを楽しんでいる。毎日の服装も相談を受ければアドバイスをしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		<p>毎週の献立表、毎月のちぎり絵作りや詩吟、歌、計算ドリル、パッチワーク、裁縫、包丁研ぎ、園芸、書道等一人ひとりの生活歴や力を活かして潜在している出来る力を最大限に活かし、その人らしく暮らせる様一人ひとりに合った生きがいや気晴らしの支援をしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や状況に応じて使わなくても所持する事で安心される方には家族と相談し所持される事を支援している。大半は外出時(買い物、バス旅行、神社参り)等に所持し楽しめる様支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	保育園児との挨拶運動、神社への散歩、清掃、近隣の商店、スーパーへの買い物、喫茶店、カラオケ等積極的に日常的に外出できるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者家族と一緒にバス旅行(フラワーセンター、花鳥園等)家族と一緒に外出はお墓参りや孫の結婚式の参加。喫茶店、花見、年末年始の外出、外泊等に行かれその人らしい生活を楽しんでいる。		
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一人ひとりの有する能力に応じて自ら電話をしたり手紙のやりとりが出来る様支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問の際は必ず湯茶を用意し、ゆっくり居心地よく過ごして頂けるよう、スペースの確保等に配慮している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し月2回会議を持ちマニュアルの見直し等をしている。施設内研修等では実体験を行い身体拘束の弊害を認識している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し又施設内研修を行い、自ら拘束される実体験をして拘束される弊害を理解している。しかしホームが3階にありEVを降りた所が保育園の園庭に面し構造上、園児の安全のため止むなく鍵をかけている。居室、非常口には鍵をかけていない。		
67 利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は昼夜を問わず利用者が見渡せる場所を確保して、プライバシーに配慮しながら安全管理に努めている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの力に応じ、ハサミ、ニッパー、爪きり、針等は身近に置き常に職員は置き場所の把握に努めている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、窒息、誤薬等、身近な事故についてはミーティング、職員会議等で常に話し合い一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時や事故防止対策マニュアルを整備して、新任職員以外は応急手当等を研修を通して出来る様訓練をしている。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月1回の避難訓練、年2回の消防署立会いのもとで避難訓練を実施している。地震時のマニュアル等も作成し研修している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりに起こり得るリスクについてはケアプランの説明時や訪問時に率直に話し取り組みや工夫等を示し理解、納得して頂き支援している。 (誤嚥、転倒、暴力等)		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックをし、顔色、表情、声の張り、排泄、食欲(水分量を含む)等、異常の兆候に気付いたら速やかに職員で情報を共有し、NS、場合により嘱託医、家族に報告し早期対応体制をとっている。		
74	服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服用する目的や副作用や用量等は理解しており、誤薬がない様に複数で確認し記録をしている。服薬の変更時は症状の変化観察を詳細に記録しNS、嘱託医に報告している。		
75	便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	管理栄養士の指導を得ながらメニューの工夫や水分量の確保、又散歩、毎日の歩こう会、リハビリ体操を日々行い自然排便を促す工夫をしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	本人の力を引き出しながら、毎食後の歯磨きや義歯の洗浄の声掛けをしチェックしている。不十分な利用者には職員が介助している。痛みや異常が見られた場合は速やかにNSに連絡し、往診等で適切な処置をとっている。		
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量や栄養バランス、水分量、摂取加りに配慮し必要な利用者には細かく記録し調整している。毎月初めに体重測定をし増減の確認をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、疥癬、MRSA、肺炎、ノロウイルス、食中毒等感染症に対する感染委員会を月2回設け、施設内研修では季節毎の予防に力を入れ取り組んでいる。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	管理栄養士や感染委員会よりの食中毒予防研修を全員が受講し台所、調理用具の清潔、衛生を保つ為の管理方法を具体的に決められている。ミーティング等でも職員の考えにズレがないか確認している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周辺には季節の花を植えたり活けたり、利用者家族、地域の人等に違和感や威圧感がない様努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間、特にホールには旅行や誕生会、行事等の写真や習字、季節毎のちぎり絵、生花等に配慮している。生活観や季節感を取り入れ利用者の感覚や価値観を大切にして居心地の良い場を整えている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	園庭にはベンチを置き日光浴を楽しんだりテレビの前や出入り口付近にはソファやテーブル、ベンチを置き相性のよい利用者同士でおしゃべりや思い思いの時を過ごせる様工夫している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

生活に楽しみと潤い、喜びがある。(周囲を山、川、田、畑と自然に恵まれた環境にあり、遊歩道や地元の神社への散歩、法人の散策公園での昼食会。四季折々に移り変わる景色を眺めながら風、光、空気、におい、流れ等を肌で感じ五感を刺激し感性を豊かにしてくれている。又、外気に触れる事により職員相互でストレスの発散にもなり、心身の活性化に繋がっている。

地域との交流(地域の老人会、自治会の方とのグランドゴルフ、神社の清掃奉仕、納涼大会、クリスマス会の参加、保育園児との挨拶運動と地域に暮らす人々との交流に力を入れている。又、地域の小中高校生との交流では箏曲、プラスバンド演奏、トライやるウィーク、ボランティア等、幅広く交流があり生活が充実している。

季節感を大切にしたい食生活(3食の食事は旬の物を出来るだけ提供し、共に作る苺ジャム、かりん漬け、金柑煮、干し柿、おはぎ等、又、プランターで栽培するゴーヤ、きゅうり、なす、三度豆は収穫する喜びと料理し味わう喜びで何重もの笑顔が見られる。

リハビリの充実(週1回のPT、OTの指導のもと行うリハビリや、毎日行うラジオ体操、レク&リハ、ビデオ体操、歩こう会、天気の良い日の近隣への散歩、食事前の口腔体操、各々の出来る範囲での家事等の生活リハビリがあり、特に下肢筋力維持の必要性を職員全員が認識し理解して取り組んでいる。